

## 「地域通貨」による市民主導の新たなまちづくりの可能性についての概要

受託自治体：島根県浜田市

## [調査の目的]

限られた地域やグループ間等で、市場では表現することが困難なサービス等を表現、交換、循環させる道具である「地域通貨」について、市民が主体的にまちづくりに参画する手法としての活用の可能性を、産学官の連携により検証することを目的とする。

## [調査の方法]

地域通貨の先進事例を調査した上で、実際に2種類の地域通貨の流通実験を平成15年9月～平成16年2月に実施し、流通状況、問題点等を検証。

島根県立大学教授及び学生、市民団体、行政関係者で組織する調査検討委員会が、調査内容の検討、進行管理、地域通貨流通実験結果の検証等を行い、実際の地域通貨流通実験は、それぞれ次の団体が実施した。

地域通貨「神楽」：「全国豊かな海づくり大会をサポートする市民1000人の会」(注)

(注)平成15年に浜田市で開催される「第23回全国豊かな海づくり大会」を成功させることを目的として有志により設立された団体。「全国豊かな海づくり大会」は、魚や貝などの水産資源を保護し増やすことと、海の自然環境を守ることの大切さを考える大会。昭和56年から海のある道府県で毎年開催されている。

地域通貨「タスキー」：「NPO法人おやこ劇場浜田・那賀センター」

## [調査結果]

## 1. 地域通貨流通実験

## (1) 「神楽」

## 「神楽」の内容

- ・毎月1回程度、早朝に市内の海岸清掃を行い、参加者に対し「1神楽」を配布。
- ・「神楽」は、市内の商店街等(浜田スタンプ会加盟店約80店)で1神楽当り500円相当の割引等が受けられる。「神楽」による割引金は、「全国豊かな海づくり大会をサポートする市民1000人の会」が全額負担する。

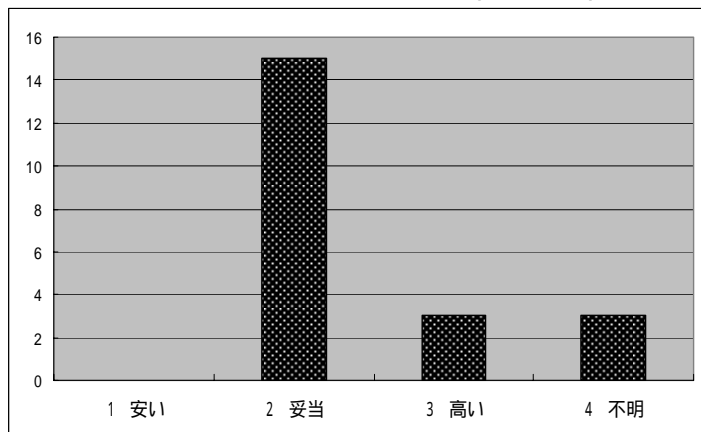
## アンケート結果

- ・平成16年2月に参加者に対しアンケートを実施。地域通貨の額として500円相当額は妥当であるとの回答が多く、地域通貨を商店街で利用するとの回答が多かった。

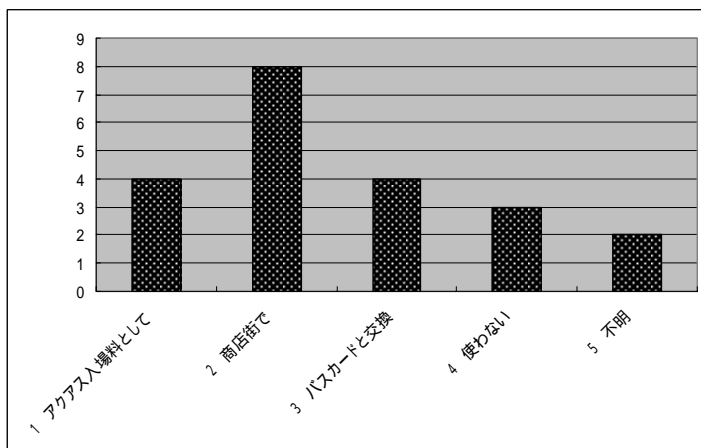
## 「神楽」の特徴と課題

- ・主催者が日時・場所・実施内容等を予め設定し、趣旨に賛同する参加者を募るものであり、比較的多くの参加者の動員が可能。また、回数を重ねていけば、活動自体が市民の間に次第に認識されると考えられ、環境清掃やイベント等の比較的人数を要する大きなプロジェクトで活用すれば、より効果が上がることも考えられる。
- ・今後、ボランティア参加者の拡大を図るため、取組みに賛同する市内の企業から協賛金を募り、また、協賛してくれた企業に環境マークやマスコットを付与するなど、企業が活動に協力していることが地域にPRできるような施策を検討する必要がある。

Q 神楽 500 円相当額はどう思いますか。(単位:人)



Q 神楽を何に使われますか。(単位:人)



## (2) 「タスキー」

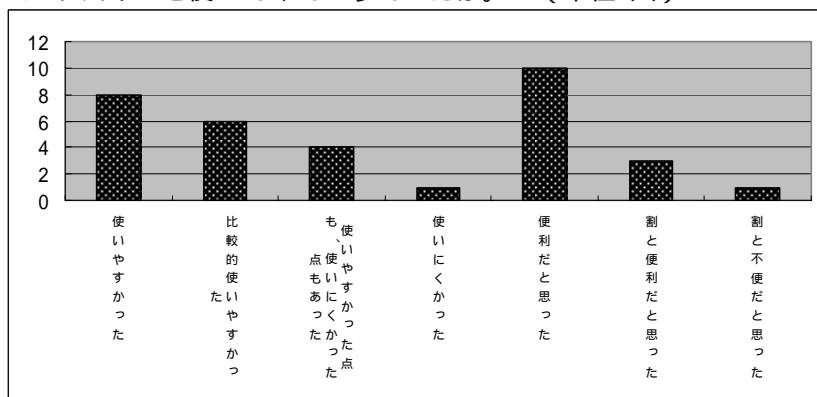
### 「タスキー」の内容

- ・NPO法人おやこ劇場浜田・那賀センター内に地域通貨研究所を設置し、会員制の「タスキーくらぶ」を組織。タスキー利用希望者は、「できること」、「してほしいこと」、住所、氏名、連絡先を「タスキーくらぶ」に登録。入会費と保険料(ボランティア保険)を添えて申し込むと、10タスキーが送付される。会員は事故等があったときに備えてボランティア保険に必ず加入する。
- ・使用方法は、「できること」が書かれたメニューリストを見て、会員間で直接サービスを依頼し、サービスを受けたときに相手に「タスキー」を渡す。
- ・価値基準は、1タスキー当り30分を目安とするが、サービスの依頼者と提供者の間での判断による。助け合いの気持ちを重視しているため、換金性は無い。

### アンケート結果

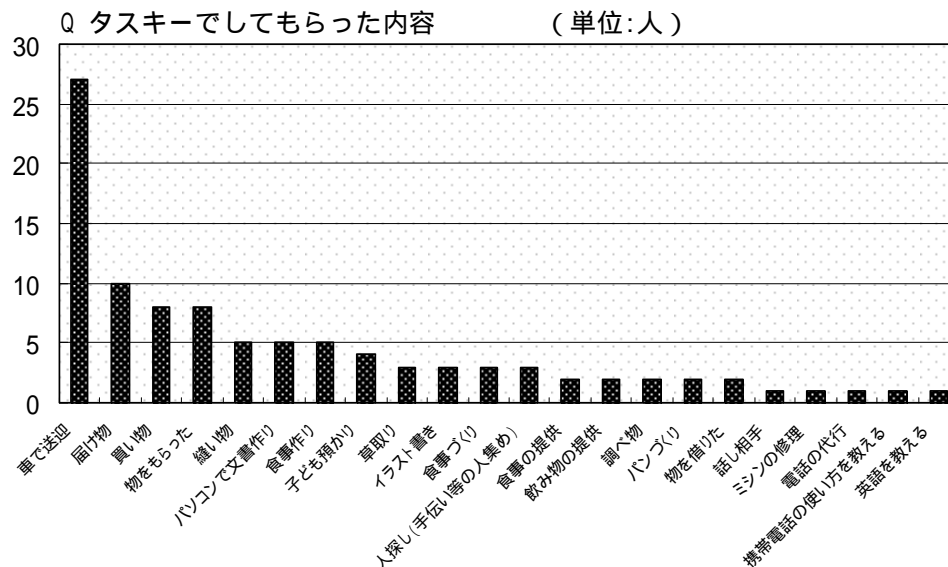
- ・11月初めに、会員に対しアンケート調査を実施。アンケート内容は、「タスキー」の使用回数、交流会の感想、「タスキー」に対する意見、要望等。会員44名中、回答者は37名(回答率84%)。
- ・流通実験開始から2ヶ月ということもあり、「タスキー」未使用の会員が多い。
- ・使用した会員の70%以上は、便利だった(割と便利だった)または、使いやすかった(割と使いやすかった)と答えている。

Q タスキーを使ってみてどうでしたか。(単位:人)



- ・さらに、平成16年2月の流通実験後に、再び会員に対しアンケートを実施。

- ・ 何に利用したかとの問に対しては、「車で送迎」がもっとも多かった。



### 「タスキー」の特徴と課題

- ・ 基本的には1対1の取引が中心で、自分のできることをできる時間に無理なく行うことができる。
- ・ 人それぞれに何か1つは特技や趣味等をもっているものであり、それらの埋もれている特技や趣味等を地域住民のために活かすことができる。
- ・ 全く知らない人同士が知り合うきっかけとなり、個々にもっているネットワーク同士を結びつけることで、支えあいの輪が急速に広がる可能性がある。
- ・ 比較的少人数からでも始められるが、より多くのサービスメニューを備えることで流通が活発化すると考えられるため、会員数をある程度募っていく必要がある。

## 2. 地域通貨のまちづくりへの活用の可能性

流通実験等を基に、地域通貨の活用により市民主導のまちづくりにつながる可能性のある取組みについて検討した。以下の取組みに活用の可能性があると考えられる。

### (1) 地域コミュニティの再生

NPO法人や各種市民団体の人材や資金の確保における地域通貨の活用。

### (2) 環境保全の取組み

海岸や河川の清掃作業などでの参加者募集における地域通貨の活用。

### (3) 島根県立大学の教員や学生と地域の人々の交流

大学の教員や学生と地域の人々との交流のきっかけづくりにおける地域通貨の活用。

### (4) 中山間地域活性化

中山間地域の住民と都市部住民や若い世代との交流の展開における地域通貨の活用。

### [調査の活用方法]

本調査報告書については、行政・NPO法人・まちづくりグループ等に配布。

現在、2つの地域通貨が4月以降も引き続き流通することがほぼ決まっており、調査報告書で検証したまちづくりへの効果を地域にPRしながら地域通貨による市民参加のまちづくりを呼びかける。